



宇賀 洋子
Yohko Uga

昭和30年卒業以来、ずっと工業製品のデザインに携わってきました。どの仕事も、多くの諸先輩、同輩、後輩との共同作業によるものです。また、各メーカーの開発部門や設計部門、技術部門の方がたのお力のもとに、生まれたものばかりです。ともに力を出し合って、ものづくりに参加してきたたくさんの方々を知り合えたことが、私の財産です。メーカー以外の研究機関や研究者、ユーザー、アドバイザーにも、お力をいただきました。ありがとうございます。

私に関わってきた製品は、もう10数年前に、億の単位になってしまいました。でも世の中に出ているモノの数が多いということは、決して威張れることではないのです。逆かもしれません。愛用者に、できるだけ長く、喜んで大切に使用してもら

えるものを、できるだけ長く生産しつづけられ得るデザインを、目標にしていきたいと思っています。工芸ニュース1971 Vol.39-2号に掲載された「デザインのライフサイクル(デザインの寿命)」は小論文ですが、ぜひみてほしいテーマです。

今後、工業デザインは、ますます個性化、多様化に向けて貢献することでしょう。でも、ユーザーに、永く喜んで大切に使用してもらえるものという基本は、変わらないでしょう。地球の汚染、宇宙の汚染を防止する役割も、デザイナーは担っているのです。

上段 1950年代の作品例
2段目 1960年代の作品例
3段目 1970年代の作品例
下段 1980年代の作品例

